CentreCOM® 9606SX/SC・9606T リリースノート

この度は、CentreCOM 9606SX/SC・CentreCOM 9606T をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。
このリリースノートは、付属のユーザーマニュアルに記載されていない内容や、ご使用の前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1　ソフトウェアバージョン　2.2.2 pl24（2.2.2-24）

2　未サポート機能

以下の項目は付属のユーザーマニュアル、または最新のコマンドリファレンスに記述がありますが、本製品ではサポート対象外となっていますので、あらかじめご了承ください。

- □　バックプレッシャー（9606T のみ）
- □　ポートの通信モード固定設定（オートネゴシエーション以外の設定）（9606T のみ）
- □　BOOTP サーバー

3　本バージョンで追加・仕様変更された機能

ソフトウェアバージョン 2.2.2 pl21 から 2.2.2 pl24 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が追加、または仕様変更されました。

3.1　DVMRP（AT-FL-03）の仕様変更

Graft/Prune メッセージに Source Network Mask フィールドを含めなくなりました。

3.2　DHCP サーバー機能に関する仕様変更

DHCP サーバー機能使用時、起動直後にインターフェースや経路の状態にかかわりなく行っていた IP アドレスの使用状況確認を、該当アドレスレンジに対応するインターフェースまたは経路が使用可能になった時点で初めて行うようにしました。

4　本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン 2.2.2 pl21 から 2.2.2 pl24 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

4.1　NTP 機能使用時、他の NTP クライアントからのリクエスト（UDP 始点ポートが 123 以外）に返信した後もクライアントの情報をリセットしないため、SHOW NTP コマンドで Dynamic Peer(s) リストが誤って表示されていましたが、これを修正しました。

4.2　ターミナルポートから大量のデータを受信すると本体がリブートすることがありましたが、これを修正しました。

4.3　本体ポート（9606SX/SC の場合）、または、AT-A35/SX または AT-A35/LX から、TX、RX のどちらか一方だけが抜けた場合にリンクダウンを検出できませんでしたが、これを修正しました。

4.4 パケットの種類に関係なく、パケットの受信中に本体を起動すると、フォワーディングデータベースに不正な MAC アドレスが登録されることがありましたが、これを修正しました。

4.5 ENABLE SWITCH L3FILTER コマンドより先にENABLE IP IGMP コマンドを実行すると、ハードウェア IP フィルターで本体 CPU 宛ての通信を遮断できませんでしたが、これを修正しました。

4.6 ある IP アドレスに対してメトリック 2 以上の経路が複数存在する場合、同アドレスへの PING 実行中に最適な経路がダウンすると、経路の切り替えが行われずPING が失敗していましたが、これを修正しました。

4.7 DHCP クライアント機能において、リース延長要求中（RENEWING 状態のとき）に、DHCPREQUEST メッセージをユニキャストではなくブロードキャストしていましたが、これを修正しました。

4.8 隣接ルーターのプライオリティーが変更された場合、SHOW OSPF NEIGHBOUR コマンドの表示に変更が反映されませんでしたが、これを修正しました。

4.9 本体を再起動した後に SHOW OSPF INTERFACE コマンドを実行すると、アップ状態のインターフェースが DOWN と表示されることがありましたが、これを修正しました。

4.10 トランクグループの所属ポートに対して ARP エントリーをスタティック登録すると、起動時にクラッシュすることがありましたが、これを修正しました。

4.11 Gratuitous ARP に対応しました。

4.12 SHOW IP COUNTER=ARP コマンドで arpTx（送信 ARP パケット数）が正しく表示されませんでしたが、これを修正しました。

4.13 DVMRP（AT-FL-03）において、送信ホストと異なる VLAN にグループメンバーが存在している場合、その VLAN に所属する下流側 DVMRP ルーターからGraft メッセージを受信しても、マルチキャストパケットの転送が行われませんでしたが、これを修正しました。

4.14 DVMRP（AT-FL-03）において、Graft/Prune メッセージを受信すると、受信ポートの所属 VLAN内に Graft/Prune がフラッディングされていましたが、これを修正しました。

4.15 DVMRP（AT-FL-03）において、Source Host Address フィールドにネットワークアドレスがセットされた Graft メッセージを認識できませんでしたが、これを修正しました。

4.16 DVMRP（AT-FL-03）において、Graft/Prune メッセージの Source Address フィールドにホストアドレスではなくネットワークアドレスをセットして送信していましたが、これを修正しました。

4.17 DVMRP（AT-FL-03）をマルチホーミングと併用した場合、マルチキャストデータが転送されないことがありましたが、これを修正しました。

4.18 SET IP IGMP コマンドで QUERYINTERVAL パラメーター（Query Interval）の値を変更しても、（内部パラメーターである）Other Querier Present Interval の値が正しく更新されませんでしたが、これを修正しました。

4.19 IGMP スヌーピング使用時、予約済みアドレスブロック 224.0.0.0/24 宛てのマルチキャストパケットを抑制していましたが、これを修正しました。

4.20 ファイアウォール（AT-FL-02）使用時、NTP などによって日時が過去に戻されるとセッションが切断されることがありましたが、これを修正しました。

4.21 ファイアウォール（AT-FL-02）において、本来ファイアウォールルールの適用対象外である ICMP パケットが、ACTION=DENY PROTOCOL=ALL のルールによって破棄されていましたが、これを修正しました。

4.22 ファイアウォール（AT-FL-02）において、Unreachable などの ICMP エラーメッセージが PUBLIC から他のインターフェースに転送されませんでしたが、これを修正しました。

4.23 DHCP サーバー機能において、継承関係のある DHCP ポリシーを複数作成して設定ファイルに保存すると、ポリシー名が ASCII コードの昇順にソートされるため、起動時にエラーが発生することがありましたが、これを修正しました。

4.24 DHCP サーバー機能において、リレーエージェント経由で受信した DHCPREQUEST に対して DHCPNAK を返送するときに、Broadcast ビットをセットしませんでしたが、これを修正しました。

4.25 DHCP サーバー機能において、OFFERED 状態のクライアントに DHCPNAK を送信した後も、該当アドレスが UNUSED 状態に戻らないことがありましたが、これを修正しました。

4.26 DHCP サーバー機能において、リレーエージェント経由で DHCP メッセージを受信すると、クライアントに誤ったサブネットの IP アドレスを割り当ててしまうことがありましたが、これを修正しました。

4.27 DHCP サーバー機能において、IP アドレス割り当て済みのクライアントから、リース期間中に再度 DHCPDISCOVER を受信すると、新たな IP アドレスを割り当てようとすることがありましたが、これを修正しました。

4.28 DHCP サーバー機能において、本体を再起動した直後の IP アドレス確認で、DHCP レンジの先頭アドレスに対する確認が行われませんでしたが、これを修正しました。

5　本バージョンでの制限事項

5.1　SNMP MIB オブジェクトについて

参照「ユーザーマニュアル」5-11 ～ 5-13 ページ
参照「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「SNMP」

SNMP の MIB オブジェクトについて、以下のような制限があります。

□　MIB II オブジェクト［ipNetToMediaPhysAddress］に正しい値がセットされていません。
□　ブリッジ MIB オブジェクト［dot1dStpPriority］に正しい値がセットされていません。
□　ブリッジ MIB オブジェクト［dot1dBaseType］に正しい値がセットされていません。
□　ブリッジ MIB オブジェクト［dot3StatsFrameTooLongs］が正しくカウントアップされません。

5.2　ソフトウェア IP フィルターについて

参照「コマンドリファレンス」/「IP」/「ソフトウェア IP フィルター」

ADD（SET）IP FILTER コマンドで OPTIONS パラメーターを指定した場合、フィルターが正しく動作しません。

5.3　フォワーディングデータベースについて

参照「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「フォワーディングデータベース」

1 回目のエージアウトですべてのダイナミックエントリーがフォワーディングデータベースから削除されない場合があります。ただし、2 回目以降のエージアウトではすべてのダイナミックエントリーが削除されます。

5.4　ディレクティドブロードキャストアドレス宛のパケットについて

異なるネットワークからディレクティドブロードキャストパケットを受信した場合、本製品が返す Reply パケットの送信元 IP アドレスに、受信インターフェースの IP アドレスがセットされず、送信元にもっとも近いインターフェース（パケットを実際に送り出すインターフェース）の IP アドレスがセットされます。

5.5　DHCP サーバー機能について

参照「コマンドリファレンス」/「DHCP サーバー」

□　クライアントに割り当てていた IP アドレスを解放した場合、SHOW DHCP RANGE コマンドの表示項目 Free Address（未使用の IP アドレス一覧）に、該当の IP アドレスが重複して表示される場合があります。

□　IP アドレスのリース期間が年をまたがった場合、SHOW DHCP CLIENT コマンドで Expiry（リース終了日時）が正しく表示されません。ただし、動作は正常です。

5.6　DHCP リレーエージェント機能について

参照「コマンドリファレンス」/「IP」/「DHCP/BOOTP リレー」

DHCP メッセージの hops フィールドの値が、SET BOOTP MAXHOPS コマンドで指定した値（最大転送回数）より大きい場合でも、同メッセージが破棄されずに転送されます。

5.7 VRRP について

参照「コマンドリファレンス」/「VRRP」

□ SET VRRP コマンドの PRIORITY パラメーターの設定（変更）が有効になりません。

□ SHOW VRRP コマンドで表示される「Up Master Trigger」と「Down Master Trigger」カウンターの値が、トリガーが起動された回数でなくトリガー番号になっています。

5.8 ファイアウォール（AT-FL-02）のアクセスリストについて

参照「コマンドリファレンス」/「ファイアウォール」/「フィルタールール」

ファイアウォールルールにアクセスリストを指定した場合、該当のルール以降のルールが無効になります。アクセスリスト以外に複数のルールを併用する場合は、アクセスリストのルール番号に「299」（最終番号）を指定してください。

5.9 IGMP（AT-FL-03）について

参照「コマンドリファレンス」/「IP マルチキャスト」/「IGMP」

IGMP を有効（ENABLE IP IGMP）から無効（DISABLE IP IGMP）に設定しても、Report メッセージがフラッディングされません。この場合は、設定を保存した後、本体を再起動してください。

5.10 スクリプト機能について

参照「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「スクリプト」

IF THEN ELSE 文で使用する文字列比較演算子 EQ（等しい）および NE（等しくない）は、文字列の先頭 2 文字しか比較しません。したがって、「AAAA」と「AABB」を比較すると、同一の文字列であると判断してしまいます。この問題を回避するには、先頭 2 文字で違いを判断できるような文字列を使用してください。

5.11 スパニングツリープロトコルについて

参照「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「スパニングツリープロトコル」

STP ドメインの設定後に PURGE STP コマンドを実行すると、本製品がクラッシュすることがあります。PURGE STP コマンドは使用しないでください。

5.12 ポートミラーリングについて

参照「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「ポート」/「ポートミラーリング」

タグなし（Untagged）に設定されているソースポートでタグなしパケットを送受信した場合、タグ付きでミラーポートにミラーされます。

5.13 SNMP エージェントについて

参照「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「SNMP」

SNMP エージェント機能を有効時、コミュニティー名を「public」（すべて小文字）に設定していると、PROTOS TEST の一部試験項目でクラッシュが発生します。これを避けるには、コミュニティー名を「public」以外に設定してください。

6 ユーザーマニュアルの補足事項

6.1 FAULT LED について

参照「ユーザーマニュアル」1-9, 6-5, 6-18 ページ

本体前面 FAULT LED（赤）の点滅の表示内容に誤りがありましたので、以下のとおり訂正してお詫びいたします。

LED	色	状態	表示内容
FAULT	赤	点灯	本体、または内蔵ソフトウェアが故障しています。
		点滅	1回点滅： ファンに障害があります。 3回点滅： リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」のDC電源ケーブルが接続されていて、本体の電源ユニットに異常があります。 4回点滅： SET SYSTEM RPSMONITORコマンドでONが指定されていて、リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」の電源ユニットに異常があります。 5回点滅： SET SYSTEM RPSMONITORコマンドでONが指定されていて、リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」のDC電源ケーブルが接続されていていません。
		消灯	システムに異常はありません。

6.2 ポートトランキングについて

参照「ユーザーマニュアル」3-7 ～ 3-10 ページ

□ バージョン 2.2.2 pl18 で、トランクグループに追加されたポートの通信モードが、Full Duplex 固定から SPEED パラメーターで指定した速度のオートネゴシエーションとなりました。バージョン 2.2.2 pl18 以降を搭載した機器とバージョン 2.2.2 pl10 を搭載した機器間ではポートトランキングの接続はできませんのでご注意ください。

□ バージョン 2.2.2 pl18 で、ポートトランキングと VLAN 間ルーティングを併用した場合に、ルーティングされたパケットに対して負荷分散が行われるようになりました。ただし、送信ポート決定の基準になるのは「IPDEST（終点 IP アドレス）」のみで、その他のパラメーターを指定した場合も、IPDEST を指定したときと同じ動作になります。

□ フラッディングされたパケットの送信ポートには、トランクグループ内でリンクが一番最初に確立したポートが使用されます。

□ ポートトランキングとスパニングツリーを同一ポートに設定することはできません。

6.3 フローコントロール（IEEE 802.3x PAUSE）について

参照「ユーザーマニュアル」3-6 ページ

「ユーザーマニュアル」3-6 ページにフローコントロールについての説明がありますが、本製品のフローコントロール（IEEE 802.3x PAUSE）は、PAUSE フレームの受信のみをサポートしています。「バッファーメモリーを監視し、空きが減少してくるとPAUSE フレームを送出する」という動作は行いませんので、訂正してお詫びいたします。
PAUSE フレームを受信した場合は、PAUSE フレームの送信元である接続機器に対して送信を一時的に停止し、フロー制御を行います。
なお、9606SX/SC は Half Duplex での通信はサポートしておりません。

6.4 ハードウェア IP フィルターについて

参照「ユーザーマニュアル」4-36 ページ

「ユーザーマニュアル」4-36 ページに、注意事項として「ハードウェア IP フィルターは、本体宛のパケット、および送信元 MAC アドレス未学習のユニキャストパケットに対しては適用されません。」とありますが、本製品にこのような制限はありませんので、訂正してお詫びいたします。

7 コマンドリファレンスについて

最新の日本語版コマンドリファレンス「CentreCOM 9600/8600 シリーズ コマンドリファレンス 2.2（J613-M0522-00 Rev.C）」は弊社ホームページに掲載されています。
本リリースノートは、付属のユーザーマニュアルと上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、ホームページで最新の情報をご覧ください。

※パーツナンバー「J613-M0522-00 Rev.C」は、コマンドリファレンスの全ページ（左下）に入っています。

コマンドリファレンス 2.2（J613-M0522-00 Rev.C）へのリンクはこちら：
http://www.allied-telesis.co.jp/support/9606/manual.html（9606SX/SC）
または
http://www.allied-telesis.co.jp/support/9606t/manual.html（9606T）

アライドテレシス株式会社
PN J613-M6873-01 Rev.J 030320